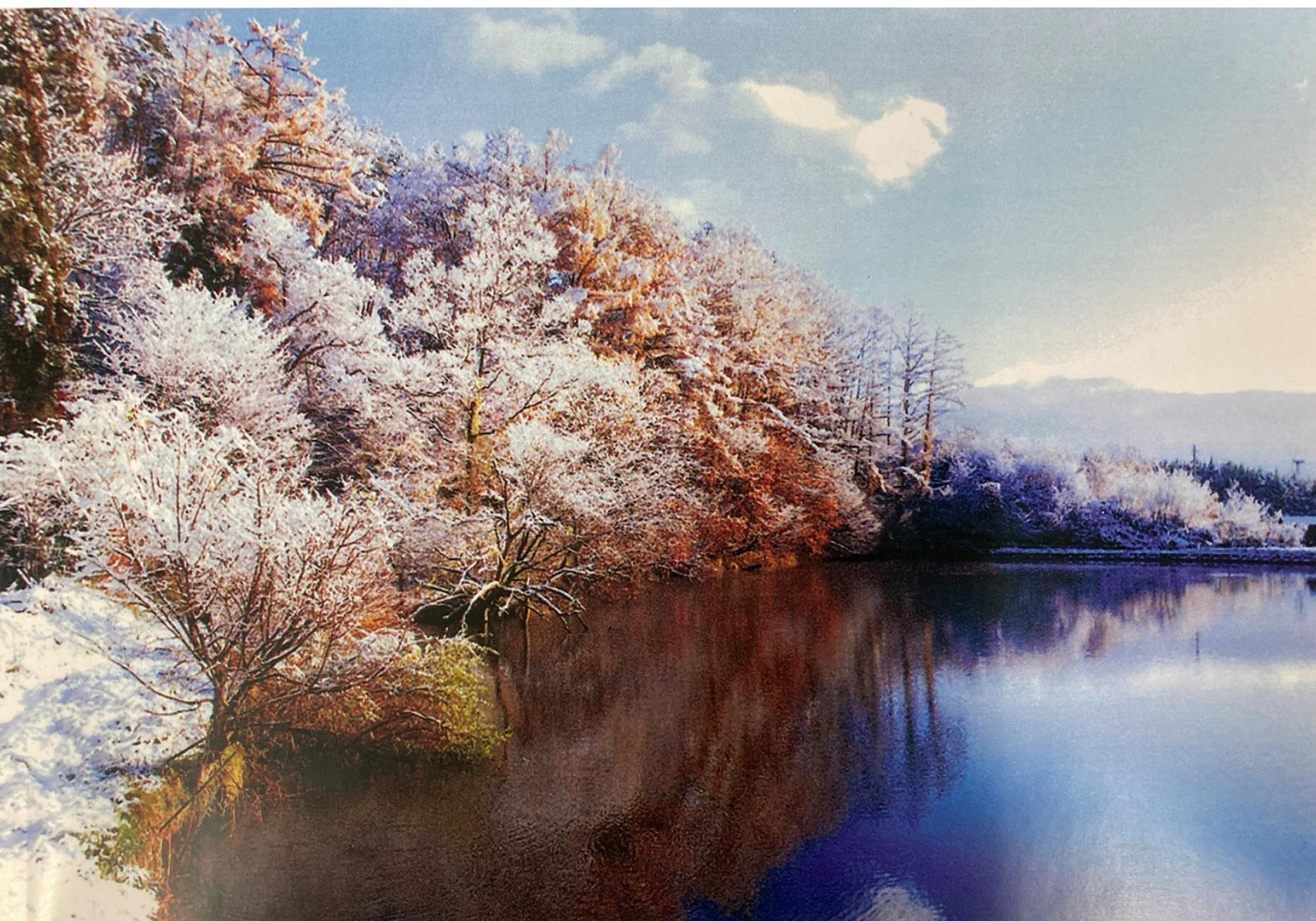


2020.1.31

支 部 通 信

No 77



長野県電気工事業工業組合長野支部
合同会社 長野電気引込工事センター

目 次

				ページ
1	Top Message	支 部 長	大田 敬壹	----- 1
2	ご 挨拶	中 部 電 力 (株) 長 野 営 業 所 所 長	和田 博明	----- 2
3	水 害 の 記 録	副 支 部 長	高津 和忠	----- 3
4	地 区 だ よ り	中野・飯山地区長	玉木 新二	----- 6
		長野西副地区長	日極 量博	----- 7
		長野東地区長	町田 幸司	----- 8
		更 埴 地 区 長	久保田貴律	----- 9
		須 高 地 区 長	藤澤 一彦	----- 11
5	フ リ ー ト ー ク	長 野 東 地 区	恩田 誠	----- 12
		更 埴 地 区	久保 義一	----- 14
		中野・飯山地区	山浦 亮人	----- 15
		須 高 地 区	曾我 邦弘	----- 15
		長 野 西 地 区	山本 克美	----- 16
6	技能オリンピック大会特集 P17～	中 部 電 力 (株) 長 野 営 業 所	岩田 好弘	----- 20
		長 野 西 地 区 長	伊東 敬晃	----- 21
		選手のメッセージ		----- 23
		店主のメッセージ		----- 26
7	編 集 後 記	総 務 副 委 員 長	久保田貴律	----- 29

(敬称略)

♪ 表紙写真 ♪

「 初 雪 」

長野市上野、見晴の湯(みはらしのゆ)の上から撮影した大池。

初雪や銀糸吐きたる山の木々
 抜けるような青い空、波ひとつない穏やかな水面^{みなも}、初雪に煌めく木々。
 この美しいふるさとの風景を、永久^{とわ}に残せますように…。

写真撮影： 丸山 善基 様



「初春のひとりごと」

～ おむすびころりん ～

支部長 大田 敬壹

さあ大変！切羽詰った。正月も終わったというのに、支部通信の原稿が手つかずのまま、原稿締切り日を過ぎた。思い起こせば、昨年の台風19号による大災害のあと、センターでは「無断事故」が発生し、連日の災難続き、「人生には三つ坂がある」というが、「上り坂」「下り坂」そして「まさか」の坂。その坂を「おむすびがころりん」と転がり落ちるように、ねずみ屋敷も飛び越えて、瀬戸際にまで落ちこんだ。

「切羽詰る」の切羽とは、日本刀の鑿（ツバ）と鞘（サヤ）の間にある金具のこと。これが錆びで抜けなくなると、いざという時、「窮地に陥る」ことをいう。昨年の我が身を振り返れば、これも身から出た錆なのか。

改めて、新年のご挨拶を申し上げます。また、平素は長野県電気工事業工業組合長野支部並びに長野電気引込工事センターの活動・運営に暖かいご指導とご理解を賜り、心から御礼を申し上げます。

既に各地区では緊急の定例会を開きましたが、今年も暮れに来て「無断工事」が発生しました。無断工事は飲酒運転と同じで絶対にやってはいけません。困った時は、とにかく「中部電力さん」・「センター」・「各地区長さん」に相談して下さい。今、引込工事センターの信頼は、かなり失墜しました。『今年こそ、無断工事、計量事故をなくしましょう！』

ただ、技能オリンピックでは、長野西地区が担当で、炎天下の中、頑張って頂きました。県大会では、その出来栄えが最高だったと感謝しています。また電気使用安全月間では各地区で活動をして頂き、各地域から感謝の言葉を頂きました。今年も、支部・センターの安定した運営と「安心と安全」の構築に向けた活動に邁進したいと考えております。

最後に、今年は「子（ねずみ）」年です。我が家の座敷の床の間に「打ち出の小づちを持った大黒様」の掛け軸が掛けてあり、その大黒様の膝元に、2匹のねずみが描かれています。そのねずみが大黒様に何かを語りかけているのですが、長いこと「俵の米を下さい」といっていると思っていました。昔々、窮地に落ちた大黒様を、ねずみが助けたことがあり、それ以来、ねずみは神様の「お使い」として崇め奉られるようになったそうです。本年が皆様にとりまして、大黒様の「打ち出の小づち」にあやかっただ「福德円満」の年でありますように！・・・





ご挨拶

中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー
長野営業所長 和田 博明

明けましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は、弊社事業に格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと5月に平成から令和へと新しい元号が制定され、新たな時代の幕が開けました。

8月、弊社では、送配電部門の法的分離を迎えるにあたり、お客さまの利便性向上と、更なる合理的な業務運営体制の構築を目的に、中野・飯山地区ならびに更埴地区の関係皆さまのご協力をいただき、長野営業所への低圧契約業務の拠点集約を行いました。引き続き皆さまからのご意見をお聞きしながら、改善点等をフォローしてまいりたいと考えます。

9月には、2年に一度の大イベントとなる、株式会社長野県電気工事協会様主催の「第36回引込および内線工事技能オリンピック」が開催されました。酷暑の中、選手への努力は勿論のこと伊東地区長始め役員・会員の皆さまの献身的な指導により飛躍的に技術の向上が図れました。連合大会への出場は逃したものの、選手にとっては貴重な経験ができたとともに、店主の皆さまや業界にとりましても大きな財産になったことと思っております。

10月の台風19号では、千曲川の決壊という未曾有の大災害が発生いたしました。被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。また、メーター取替や漏電調査に多くの応援を賜りましたことに対し、改めて感謝申し上げます。水没地域のお客さまは、宅内の照明やコンセントが使えて初めて電気が届いた認識されることから、我々中部電力と電気工事店さまが一体となり、双方の理解と協力がなければなしえないことを実感した災害でもありました。今後の災害時における対応に、今回の反省を活かしてまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

そして、今年の4月にはいよいよ電力システム改革の最終段階として、送配電事業の法的分離が行われ、営業所は、現在の電力ネットワークカンパニーから中部電力パワーグリッド株式会社に生まれ変わります。「安定供給」という使命に変わりはありませんが、新たな創業の気概を持って臨みたいと考えております。

最後になりますが、ルールは皆さまの安全と公衆保安のために定められたものであり、それをしっかりと守ることが皆さまの身を守ることにあります。本年も「安全と健康」を第一に、会員の皆さまをはじめ関係者全員が無事故・無災害で過ごすことができますようご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

水害は忘れる間もなく やってくる…かも!?

副支部長 高津 和 忠（高津電気工事株式会社）

「高津さん、大変！水がすぐそこまで来てますよ！みんなで逃げましょ!!」令和元年10月13日朝6時過ぎ。当社の水害はこの近所の奥さんのインターホンによる一報で始まった。それは、飯山市の公式な避難勧告発令の40分前のことだった。

昨年台風19号による水害からすでに3ヶ月が経過した。県下では千曲川を中心として、上流から中流域にわたり広範囲に被災した。特に長野市穂保地区周辺の被害は甚大で、2名の尊い命も奪われた。中部電力や引込工事センター傘下の店社に大変ご苦勞をいただいた電力復旧作業も、この地区と避難所を重点的に行われた。

この地域の被災状況や復旧活動については、今なお度々報道等がなされているが、ご承知のように被災したのはここばかりではない。手元の資料で住宅被害に絞って調べた結果、長野市の床上浸水3,305世帯、床下浸水1,781世帯に対し、北信の他地区合計で、それぞれ2,060世帯、1,181世帯となっていて、決して無視できない数字であった。

この日の未明。私は寝室で市の防災無線で刻々と伝えられる、千曲川の水位情報に耳を傾けていた。（飯山市の防災無線はラジオのように各戸に貸与されている）4時、上流中野市立ヶ花の水位観測所で12.44m（氾濫危険水位9.6m）という驚異的な数字が観測され、3時間後の7時に飯山でも11.1mの最高水位を観測した。

立ヶ花の12m越えなんて、それまで聞いたこともなかったが、それでも私の心中は令和となってもなお「平静」だった。数年前目にした「洪水ハザードマップ」がこの地点の氾濫時水深3mを示していたにもかかわらず、「それでも街の中は大丈夫だろう」と高をくくっていた。左岸を走る飯山バイパス（堤防）は、新幹線のトンネル掘削土によってぶ厚く補強され、市街地は鉄壁の守りと信じられていたからである。あくまでも千曲川本流の護岸に限っては…

ところが今回の水害の盲点は、千曲川支流で、市街地の北側を流れる「皿川」にあった。まさにノーマークだったこの川が13日未明に内水氾濫し、越水と共に一部堤防が決壊した。この「内水氾濫、越水」と「決壊」とでは流入水量・速度等においてもまったく比較にならないもので、この情報は当局から全く届かず、後に例のインターホンによって初めて、市街地の北側か



皿川堤防決壊

らひたひたと押し寄せる水を知ることとなった。この為、当社も初動の措置がかなり遅れ、甚大な被害を被った。

当社の業務用 LINE (LINE WORKS) の履歴 (スレッド) を辿ると、当日の一連の動きがわかるので、一部を抜粋して紹介する。

6 : 1 8 (社長) 皆さん台風の影響はいかがですか？ 我が家は現在駐車場が浸水です。皆さんもくれぐれもご安全に！

社長の自宅は市街地の中心部。飯山市役所の近隣で、今回最も被害の大きかった地区でもある。

6 : 2 5 (社長) 先ほど会長から連絡があり、倉庫 1F の資機材を上げたいので、出社できる人はお願いします。

6 : 2 7 (社員) わかりました。

この後、私は社員の到着を待ちながら、家内と共に自身の社用車 (PRIUS) と自家用車 (PRIUS PHV) を飯山駅の立体駐車場に移動した。この時の水位 20cm。

やがて駆けつけた社長と社員と共に、すべての作業車 (軽ワゴン) を市街地西方の安全な社有地に移動させたが、この時既に駐車場の水位は 30cm 程。1 t トラックは車高が高いので大丈夫だろうという社長の判断でそのまま移動せず。(結局のところ水没し、当社唯一の被災・廃車両となった)

水かさが目に見えて増してゆく中、皆で倉庫内の資機材をできる限り高所に移動。

8 : 0 0 全社員待避 (帰宅)

8 : 2 7 (会長) 事務所 1F 浸水です。

8 : 2 8 (会長) 1F コンセント回路停電させました。

9 : 4 4 (社員) (会社に) たどり着けなくて申し訳ありませんでした。小牧橋付近が決壊し、綱切橋も通行止めです。

9 : 5 8 (会長) 会社は孤立中。危険なので出社せぬように。

この後も水位は上がり続け、事務所内の水かさは最終的に 55cm にも達した。床置き事務機器は水没したが、机上のノートパソコン等は幸い難を逃れた。

電気・水道・ガスは終始使用できたが、下水道の使用が制限されたまま、丸一日を 2F の住居で過ごした。シンと静まり返った街中。隣の警察署から、救命ボートが時々出入りしていた。泥水は日付が変わっても全く減る気配もなかった。

翌 1 4 日

5 : 3 6 (会長) おはようございます。社内、倉庫内の水は引きましたが、一面泥だらけです。

5 : 5 1 (社長) 廻り中泥だらけです。これからが正念場です。

社長のメッセージの通り、この日から連日、社員総出の後片付けが始まった。取引先の電材店の皆さんなども加わり、実に大勢の方々に力を貸していただいた。

19 : 4 5 (社員) 一日お疲れ様でした。まだまだこれからが大変ですね。皆さんの力で、もとの職場に戻せるよう頑張りましょう。

19 : 5 2 (社長) 会社も大変ですが、お客様や現場も大切です。ワンチームで乗り切りましょう。

社屋北側のプレハブ仮設事務所での営業を経て、ようやく元の社屋で通常の営業を再開したのは、年末になってのことであった。この間、皆様からは当社に対し、ご厚志を頂戴いたしました。紙面をお借りし、改めて御礼を申し上げます。

追記

今回の被災を通して強く感じたことは、過去、大きな災害が起こる度にその必要性が強く叫ばれ、おそらくすでに大手企業では常識とされているであろう、BCP（事業継続計画）の必要性であった。

BCPとは一般的に、「企業が自然災害・大火災・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に於いて、事業資産の損害を最小にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能にするために、平常時に行うべき活動や、緊急時に於ける事業継続の為の方法・手法などを取り決めておく計画」とされている。

当社ではこれまで、この計画については検討も策定もまったくなされぬまま、「水害」という想定外の災害に見舞われた。それでも当社は今回、厳しい経営環境の中ではあっても、たまたま多少の余力と社内外のコミュニケーションに助けられ、比較的早期に事業の再開にこぎ着けることができたが、仮に最低限のものであっても、BCPがあったならば、より効率的な行動や処置、結果的に最低限の損害へとつなぐことができたのではなかろうかとも思っている。

今回の災害を教訓として、これまでの一連の経過を検証すると共に、ハザードマップ等を基にした当社の被災リスクや初動対応の確認しながら、会社や社員を守る為の対策をまとめたBCPを策定することとした。



↑ 本社隣の飯山警察署

本社東側駐車場と
水没したトラック



地区だより

中野・飯山地区

令和元年を振り返り 令和2年を迎えて

中野・飯山地区長 玉木 新二

2020年新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

2019年は年号が令和に変わり5月から新しくスタートしました。私たち地区も中野・飯山地区になり、もう少しで1年になろうとしています。2019年は良い年になるかと思いましたが、10月12日～14日に台風19号が襲来し、大災害となりました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

長野が被災地になるとは誰もが思っていない、そんな大災害になりました。千曲川堤防の決壊で赤沼地区、穂保地区、豊野地区全域にわたり家も流され、床上まで水に浸かってしまいました。私たちも災害普及に参加をさせていただき、災害の恐ろしさを痛感いたしました。多くのボランティアの方たちが参加され、泥出しや片付けをされていることは大変ありがたく感じました。被災された方も励まされ、少しは元気が出たと思います。私たち地区でも中野地区の上今井地区、立ヶ花地区、栗林地区、延徳地区、また飯山地区でも市街地周辺が床上浸水となり、会員の皆様も被害に遭われています。

中部電力(株)の災害要請により、災害普及に会員の皆様に動員をお願いし、多くの会員様に協力をいただきました。本当にありがとうございました。また長野地区より、仮設住宅の電気工事の要請があり、私たちも協力をさせていただきました。何とか工期内に

完成させることができほっとしました。災害から2ヶ月余りたち、少しずつ復旧はされていますが、まだまだです。新しい年を迎え『がんばろう長野』の精神で復興に向けて頑張りましょう。

さて、長野引込工事センターも去年はいろいろなことがありました。台風19号災害以降、無断工事及び事故等が多く発生しました。中部電力様には、ご迷惑をお掛けしました。事故等の対策は訓練等の内容をこれから変えていき、皆様1人1人に理解をしていただく訓練をしていかなければと思います。中野・飯山地区としては、今年新しい年を迎え1人1人事故は起こさないよう目標を立て、1年間頑張っていきたいと思えます。



歴史から学ぶ水害

長野西地区 副地区長 日極量博

令和元年10月12日、台風19号上陸。翌13日未明の千曲川堤防決壊と周辺地域一帯の浸水は、その映像が全国ニュースでも連日大きく扱われ、私達の記憶に新しい。「記憶に新しい」は凶事にばかり用いるものでもないが、以前から自然災害に紙数を割く資料の多くでこの言葉が使われている。「天災は忘れた頃にやってくる」との戒めもあり、私達は災害と記憶とを結び付けることが、防災の根幹となると信じている。

平成9年刊『豊野町の自然』（豊野町誌刊行委員会）には、『この大災害を教訓として、今後に生かされることを願って、平成7年7月の鳥居川氾濫の経緯が詳述されている。豊野町では昭和56～58年にかけて3年連続で水害が発生し、平成7年当時はその経験から『町を水害から守るための、町長を本部長とする災害対策本部を組織化していた』そして『豊野町の対応は、この日豪雨に襲われた県下の市町村の中では最も早かった』。過去の被災の記憶が行政に危機管理を促し、行政の対応が住民の危機意識を促す。災害と記憶の循環が上手く機能しているように見える。一方で同誌『鳥居川氾濫の様子』の項には次の記述もある。『今回の水害は、まったく予想外の場所から始まった』

人知は未だ大自然に及ばず、たとえ忘れていなくとも天災は思いも寄らぬ所から私達に襲いかかる。記憶による備えは対症療法でしかないのだろうか。

『豊野町の自然』には15世紀以降の主な水害や、氾濫を繰り返し、その都度治水が行われてきた河川の来歴と課題も記されている。長い年月をかけ少しずつ、しかし確実に防災の技術を高め、度重なる水害を克服してきたこの国の歴史は、たとえ次の未知なる天災を完全に防ぐことはできなくとも、復興の希望としての大切な記憶となるものだろう。



長野東
地区

力の集結

仮設住宅の建設に携わって…

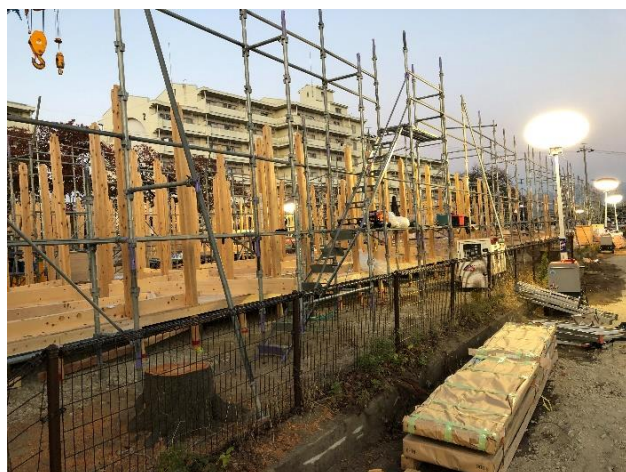
長野東地区長 町田 幸司

新年明けましておめでとうございます。令和2年度のスタートになります。昨年は地区行事以外にも会員の皆様には大変お世話になりました。振り返ってみると昨年は大変な一年であったと思います。元号が変わって新たな気持ち、そして東京オリンピックを一年後に控え明るい未来に感じてた矢先、台風19号が長野に甚大なる被害を与えました。先ずは被災された方々にお見舞い申し上げます。現在も災害復旧に携わっている方が多いなか、完全なる復興にはまだまだ時間はかかると思いますが『ONE NAGANO』で乗り切りましょう。

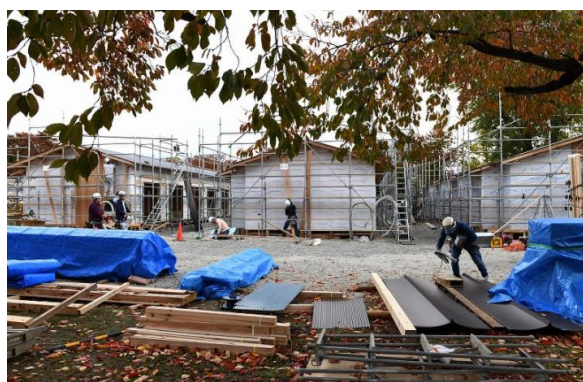
長野地区でも被災者の方の応急仮設住宅の建設の協力を、全木協一長野県協会より依頼を受け着手しました。約三週間で55世帯の電気工事を完了させるために全力で対応しました。中野・須高・更埴地区の会員様にもご協力いただき遅れることなく無事引き渡しが完了できたこと心より感謝申し上げます。協力頂いた20社の社長様・従業員の方々本当にありがとうございました。工事内容的には平屋住宅・アパートの一般的な電気工事ですが、あれだけの大工さんが一機に工事を開始されるとさすがに圧倒されました。地盤整備から建て方まで本当に早かったと感じます。建築業者さんも各協会からの応援にて多い時には100名体制で現場に投入されていました。今回の災害復旧工事を通じ多くのことを学びました。

災害復旧は誰が主？協力体制は？お金は？と明確にしておかなければならない課題が多くわかりました。災害に慣れていては困りますが、いつまでも安心安全は確約されていない現状を踏まえると今回の体験は非常に多くの事を学ばせてもらいました。そして北信の人は思いやりが深くまた協力的である事を実感できたこの数か月に、心から感謝いたします。

一日でも早い復興そして生活再建を願います。



木造の32戸を建設の上松東団地



完成した上松東団地と若槻団地の仮設住宅。骨組みには長野県産の木材を使用している。

更 埴
地 区

災害を教訓として

更埴地区長 久保田 貴律

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。平成から令和に変わった節目の年は、長野支部管内は、大変な一年になってしまいましたが、令和二年は皆様にとって大変良い一年になることを願うばかりです。

更埴地区は、4月に新体制でスタートし、技能確認訓練、電気使用安全月間に伴う配線診断、耐圧試験、安全大会、球技大会と、会員ならび中部電力様のご協力のもと地区事業も順調に進んでまいりました。

→長野市篠ノ井御幣川の
水害状況



しかし、10月13日、14日の台風19号による災害により更埴地区内は一掃してしまいました。千曲川の氾濫、越水により千曲市、篠ノ井、松代地区が浸水、当地区の会員会社及び社長宅浸水被害が9社ありました。各社従業員も被災され避難生活を余儀なくされた方も何人かいると聞きました。また台風19号が通過し一夜明け、報道等で長野北部の被害状況を見たときは驚愕してしまいました。その後の片付け等に追われる中で集められた災害ゴミの山を目の前にし、自然に対する私たちの非力さも痛感しました。今回の災害は「100年に一度の記録的災害」などと言われてますが、

これだけ温暖化が進む現在、いつ災害が起こってもおかしくないと思います。地区内でも身近な人、会社、仲間が被災する現状を見て「何かしらの備えが必要だ」という声が上がっています。確かに今回の災害の様なときは、地区としても多少でも力になれる様になっていればと思い、今年度以降の課題として考えていこうと思っていますのでご協力よろしく願いいたします。

まだまだ復興はこれからですが、更埴地区はもちろん長野支部全体で団結し力を合わせ、乗り越えていきたいものです。

また今年は皆様にとって穏やかで良い一年になることを願っております。



↑災害ごみの排出場所となった
松代の青垣公園運動場

イラスト by 鉄拳

組合員の連携

須高地区長 藤澤 一彦

須高
地区

新年あけましておめでとうございます。令和初の新春を迎えるにあたり、謹んでお喜び申し上げます。また、昨年中は組合又引込センターの事業に御協力いただきまして厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと度々の事故審議会の会議、なかなか減らないトラブル、どんな対策をとっても守れないルール、須高地区でも昨年の12月には緊急定例会又検討会を開き周知徹底するよう安全会議をしたところでした。今年は穏やかな年にしたいものです。

もう一つ、昨年の10月には台風19号により長野市、須坂市、小布施町、高山村と最悪な水害に見

舞われました。須高地区でも須坂市の相之島団地では床上1.4mも水が上がり電力メーターのすぐ下までできていました。高山村では山田温泉から上流の山田牧場の県道が水害で通行止に、一時は山田牧場の村民のお客様が停電を含め孤立状態になってしまいました。小布施町ではインター付近の民家数軒が水害に遭いました。組合員の中では1社

床上浸水の被害がありました。

このところ毎年のように日本各地に自然災害が多発し地域救済への影響もみられるようになりました。災害への取り組みも組合員また関係機関を連携した対応が必要になると思います。

本年が皆様方におかれまして明るい1年でありますよう祈念申し上げますと共に一層のご支援ご協力を賜りますことを心よりお願い申し上げます。



須坂市相之島から小布施へ向かう途中



相之島団地の水位は1mを遥かに超えた

長野支部版 / スピーカーズ・コーナー



大丈夫か？ 青年部会

長野東地区 恩田 誠（G&Eかんぱにい）

私が入会している工業組合の青年部ですが、現在16名の部員で活動しています。私が入会した平成25年は、14名ほどの部員で活動していましたので、若干、部員が増えています。

青年部の活動内容は、青年部会規約の目的に

「この会は、将来を背負う電気事業者の若きリーダーを中心として組織し、組合の健全なる発展を図るとともに企業の合理化、近代化及び高度化を推進するため、会員の研修と相互の連携を強め、これによって優れた組合指導者の成長を期し、業界の発展に大きく貢献することを目的とする。」

とあり、この目的を達成するために、会員相互間の連携・事業・情報の交換や各種研修会の開催を定期的に行っています。

一般的に青年部会の活動というと、飲み会だと思われるのではないのでしょうか？確かに、青年部の活動は飲み会が主流です。しかし、将来を担う若きリーダーたちは飲

み会をしながら、自分たちの仕事上の問題点や施工上の問題点の改善の方法などの情報交換をしています。また、他支部青年部員から依頼される仕事の融通もしています（支部長が）。もちろん、研修会もやっています。こんな活動をしている青年部会ですが、最近、困っていることがあります。それは、部員数が減少傾向にあるということです。

私は、この話の冒頭に、平成25年は14名在籍していて、現在16名の青年部員が在籍していると書きました。なので、部員数が減少傾向にあるという今の話は間違っているように感じられるかもしれませんが。確かに、部員数は増えています。これ、じつは、平成30年5月に開催された総会で規約の一部が改正されました。その改正された内容が、会員資格の年齢の変更で、今までより卒業する年齢が2つ上がりました。これにより、令和3年3月の年度末まで卒業する部員がいなくなり、このような状況が起きています。しかしながら、規約の通り、永久に青年部員ではいられないので（賛助会員は永久ですが）、1年後には3名、2年後には2名、3年後には2名の青年部員が卒業を迎えます。もし、この先、新入会員が0名だったとすると、3年後には9名しか残らなくなります。

この記事を読んでいるほとんどの方は、今、日本では少子高齢化が進んでいて子供の数が減少していること、また、本会の会員も減少していること、などから青年部会も減少傾向になるのは当然のことだと思われると思います。ですが、長野支部の青年部員の部員数が16名、本会の組合の会員数が62名、一人で事業をやっておられる方、後継ぎのいない方もいらっしゃると思いますので、単純に比較できるものではありませんが、まだまだ、青年部会の会員になっていただける方はいらっしゃると思います。また、青年部会に入会できるのは、後継者だけではなく、若手の従業員でも大丈夫です。

業界及び組合の持続と発展、また、自社の事業の持続をさせるためにも、青年部員の人数を増やしませんか？

若手に心当たりのある会員の皆様、ご協力をお願いします。

十一月二日に松本で開催された『ものづくりフェア』。青年部会のブースは盛況でした。



うまいもの が 食べたい

更埴地区 久保 義一
(有限会社久保電機)

昭和、平成、そして令和2年が始まりました。それぞれに大変な時代の印象があります。そして昨年10月の台風19号には驚かされました。想像もできない河川の氾濫による大規模な水害になり、被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

会社と自宅は濁流が2m付近まで押し寄せましたが、幸いなことに近くの低地に流れ込み水害を免れました。しかし、畑の一つは全面濁流で流され、もう一つは水深2mの水害となりました。水没した場所には果樹を作っており、まさか水害になるとは予想できず、収穫までもう少しのりんごや梨を前もって採っておこうとは思いませんでしたので、朝起きて現状を見た時はショックでした。母が生きていたら台風被害にあった畑を見てさぞかし驚き悲しんだことでしょう。

自家用にと新品種の苗を植えたり、プラム・桃・夏りんご・梨と子供の頃から農業をしていた母の手伝いをしていたせいか、少しずつ楽しみながら農作業をして、多くの果実が日に日に実り7月末から収穫が始まります。熟した果実を見ながら、一つずつ収穫してやっと食べることができるのです。こんな贅沢はないでしょう。うまいものを食べる妻の顔はいつもうれしそうです。

一昨年の収穫は1tを超えていたと思います。今回も多くの実がつきましたが、もったいながって摘果が思うように出来ず、普通の2~3倍の実をつけてしまいました。完熟した大きな果実にするには数が決まっているようです。親戚、近所にもおすそわけをしたりして、自家用だからと思わずに適切な数に摘果をするのが今後の目標です。少しずつ地道な作業をしていくところは、何か電気工事に似ているような気がします。

また今年も電気工事をしながら忙しい毎日が始まります。今年は自然災害がないことを祈りつつ東京オリンピックを楽しみに、おいしい実を作りたいと思います。



写真は旬のルレクチエです



趣味

中野・飯山地区 山浦 亮人
(中野電機工業株式会社)

忘年会であまり面識のない人と会話する時「趣味はなんですか?」と聞くことがあります。するとみなさんいろいろ趣味をもっている人が多く、いきいきと話をされます。やはり仕事ができる人は私生活も充実されているんだ、素晴らしいなと感じます。そのうち「山浦さんの趣味は?」と聞かれ「趣味ないですね、今度魚釣り教えてください」と答えるのが精一杯です。しかし1つだけ好きな事があります。それはビールの飲み比べをする事です。

近所の西友に行って3種類ぐらいの缶ビールを買ってきます。(ビールを選んでいる時も楽しい時間です)そして同じ形のグラスに注ぎ、味の違いを楽しみます。ただほとんど違いはわかりません。この前はスーパードライとアサヒ極上を比べたのですが、全く違いがわかりませんでした。ドイツやベルギーのビールを買ってくることもありますが、独特の味があり楽しめます。確実に味音痴の私ですが、好きなビールは麒麟のハートランドです。あの小麦のにおいが最高です。みなさんのお勧めのビール教えてください。

防災訓練

須高地区 曾我 邦弘
(有限会社曾我電気工事)

須高地区では須坂市と災害協定を結んでおり、毎年8月の総合防災訓練に参加しています。内容は、家具と見立てての足場組みと電灯コンセントの配線と仮設電灯盤取付、そして発電機電源使用の仮電源確保工事です。さすがに皆さん作業には機敏で、チームワークの良さには感激します。

自分自身災害の経験があまりなく、役割のごとく参加していましたが、10月の台風19号に襲われた大災害には、改めてその恐ろしさに気付かされました。避難指示が発令され真夜中に堤防の越水が発生し、不安な一夜を過ごしました。幸い自宅付近では大きな被害もありませんでしたが、被災した友人や知人の応援に行き、ボランティアの方々の心のケアや自衛隊の方々の知識と行動を見て、助け合いがいかに大切かという事を身に沁みて感じました。

次の防災訓練には他団体の訓練も参考にしながら、令和元年に躍動したラガーマンのように、『ONE TEAM』を見習い日々過ごしていこうと思います。



我が家の猫

長野西地区 山本 克美 (有限会社アルプステンキ商会)

娘が、犬を飼いたいと言っていた折、叔母さんの家で子猫が生まれたので、その中で、真っ白で毛がもこもこの一番かわいい一匹をもらうことができました。我が家に「もか」がやってきました。(お金がかからなくてひと安心・・・)

猫は飼った事がなかったのですが、散歩をしなくていいし、臭いもないし、トイレもきれい好きなので猫砂のある所でちゃんとしてくれます。(めんどくさがり屋にはとってもいい・・・)



ただ失敗だったのは、爪とぎのしつけが上手く行かず、我が家の壁や襖はボロボロです。また、なるべく外に出さないようにしているのですが、夏など窓を開けておくと網戸を手で上手に開けて外に脱走しますが、しばらくするとお土産(セミ)をくわえて誇らしげに帰ってきます。(ねずみでなくてほっ・・・)

よく食べるので最近は太りすぎ出すが、家族に癒しを与えてくれる大切な存在です。



お知らせ

職長・安全衛生責任者

能力向上教育

二月十二日 水曜日

長野地域職業訓練センター

長野支部定時総会

五月十四日 木曜日

ホテル国際21

第一種電気工事士定期講習会

二月十三日 木曜日

三月十日 火曜日

五月二十五日 月曜日

長野地域職業訓練センター

長野県電気工事業工業組合総代会

五月二十二日 金曜日

メトロポリタン長野

※総代の方は出席してください

特集

第36回 引込および内線工事

技能オリンピック

長野県大会

2019/9/19

中部電力株式会社

吉田訓練所

出場選手

平坂健さん 31歳 (班長)

株式会社 旭電気商会

松下翔平さん 28歳

株式会社 町田電機商会

小林克也さん 25歳

不二電工 株式会社

向かって左から

松下選手・平坂選手・小林選手



あの夏



君たちは





**力の限りを
尽くして
戦った**



技能オリンピックを終えて

中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー
長野営業所配電建設課 副長 岩田 好弘

残暑厳しい中での技能オリンピックから月日は経ち、日増しに寒さ厳しくなる初冬の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、2019年9月19日に第36回引込および内線工事技能オリンピック長野県大会が開催されました。長野電気引込工事センターからは、旭電気商会の平坂健選手を班長に、町田電機商会の松下翔平選手、不二電工の小林克也選手の3名が出場し、本人たちにとっては辛かったであろう訓練の成果を十二分に発揮し、輝かしい姿を見せていただきました。当日、私は審査員として、他のチームの審査をしておりましたが、それを横目に祈るような気持ちで拝見していました。まずは、平坂班長のピリッと引き締まる大きな声に驚き、練習の120%、いやそれ以上の力を発揮してくれると確信しました。そして、松下選手の順調な内線の工事進捗に安心し、柱上作業を実施した小林選手の緊張がこちらにも伝わるような雄姿に涙が出そうでした。一人ひとりの活躍はもとより、数カ月前に出会ったばかりの3選手たちがお互いに声をかけあい、一つのチームとして団結した技能を披露するまでに成長したことが何ものにも代え難い成果であったに違いありません。

思い返せば選手たちは、7月10日の開講式の時には、引込センター関係者の方々も知りもしない中部電力の面々を前に、計り知れない不安を抱いたことでしょう。それから、大会に向けて、実技競技の訓練だけでなく、学科と接遇競技も訓練する日々でした。連日35度を超える猛暑が続く中で、汗だくになって訓練を重ね、選手たちの成長が手に取るようにわかりました。実技競技においては、選手たちを大きく上回る年齢の講師からの指導でしたが、このような機会でなければ体験できない貴重な時間であり、ひと回りもふた回りも選手たちを大きくしたことでしょう。

私は主に学科の講師として、選手たちとの時間を過ごしましたが、いつしか親心のような気持ちが芽生えていました。訓練を重ねる中で私がうれしく感じたことは、選手たち自らが訓練予定のない日にも訓練をやりたいと申し出てくれたことです。7月10日の選手たちからは想像もできないことでした。選手たちには、あの向上心を持って主体的に行動したあの「思い」を大切にしてもらいたいと、講師として僣越ながらお伝えしたいと思います。

短い期間の中で選手たちの努力により、大きく成長し、会場に駆け付けた関係者の皆さまにも、高い技術力を披露しました。惜しくも入賞は果たせませんでした。上位との差はごく僅かでありました。選手たちには、電気工事のプロとして、自信を持ってこれからの地域を牽引していただくことを願っております。

最後に、各店舗の貴重な戦力を選出いただいた店主の皆さまと、大会に向けて準備等

ご尽力いただいた地区の関係者の皆さまに敬意を表するとともに、講師として至らなかったことをご容赦くださいますようお願い申し上げます。大会を機に培った組織力と技術力が、今後の発展につながることを祈念申しあげ、甚だ恐縮ですが、結びとさせていただきます。



限界に挑む

長野西地区長 伊東 敬晃

新春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

「第36回引込および内線工事技能オリンピック長野県大会」が9月19日に中部電力株式会社電力NWC P吉田訓練所で開催されました。各引込工事センター5チーム15選手が出場し、『電気工事技術ならびに技能の向上、電気設備における公衆保安の確保と、お客さまサービスの向上に資すること』を目的に競いました。前回の「支部通信第76号」において大会出場までの過程を記しましたので、今回はその後をお伝えしたいと思います。

朝7時30分。電気会館に選手3名、役員3名が集合し、前日に大会用の資機材を乗せたトラック2台に分乗し、吉田訓練所へ出発した。朝方は少し寒くなりジャンパーを引っ張り出して着て行ったが、訓練所の競技用テントへ工具等の搬入準備を行っている頃にはジャンパーを脱ぎ、雲の合間から時折日が差し暑くもなく、絶好の大会日和になりました。（この天気なら熱中症の心配がない。ホッ。）9時から開会式が始まり、9時40分に実技問題が配布されました。訓練の成果を発揮出来れば、十分時間内に終わることができる内容でした。（これならイケる。）

10時実技競技開始。平坂班長をはじめ、長野チームのTBM-KYの声が会場に響きます。（イイぞ。）序盤は少し硬さがみられましたが、競技が進むにつれ、本来の動きを取り戻していきました。時間配分もよく、進捗状況は他のチームを上回り、これなら時間内に十分完成できそうです。（連合会大会に行っちゃうかも。また訓練が大変だなあ、どうしよう(^)V)

実技終了が見えてきて応援席にも安堵の空気が流れ始めていた時、「ガシャーん！！」（なんだ、どうした？）

さっきまでの空気が一瞬にして凍りつき、選手、応援席とも、士気が下がっていくのを感じました。

結果は入賞することは出来ませんでした。時間内に余裕をもって、絶縁抵抗測定・電圧測定などの試験、掃除・片付けを終えたのは長野チームだけでした。出来栄えに関

しても他のチームに一步も引けを取らない、素晴らしかったと思います。目的の『電気工事技術ならびに技能の向上、お客様サービスの向上』の点では、他のチームを上回っていたと思います。(公衆保安の確保と学科かなあ?) 3人の選手の皆さんは下を向くことはありません。胸を張って、この経験をこれからの活かしてください。7月10日からの2カ月と少し、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。また、連日、実技に学科に指導して下さった中部電力の講師の方々、27日間・延べ71人の訓練に立ち会って頂いた役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

参考までに…

優勝 松本センターチーム
準優勝 飯田センターチーム
第3位 諏訪センターチーム
でした。また、松本センターチームは11月7日に行われた連合会大会でも優勝されました。

前号の結びに、「これからの季節は台風等の災害が心配されます。」と書きましたが、とんでもない台風が来てしまいました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

新年を迎え、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

応援して
くれた
愛妻と…



学科講師の岩田副長



↑実技指導の
小山さん・鎌倉さん



←
伊東地区長
日極副地区長
堀内副地区長



班長としての責務

株式会社旭電気商会 平坂 健

『技能オリンピック』出場の話が最初に社長から伝えられた時、正直一級施工管理の試験勉強が重なっていた事もあり、嫌だという気持ちの方が強かったのを感じています。しかし出場が決定し開講式を迎えた時には、十数年間電気工事士として経験を積んできた事をぶつけてみたくなり、「やるからには優勝しかない！」という気持ちが強くなりました。

選手三名の中では最年長という事もあり、班長を任される事になりました。社内では10年以上ずっと最年少の立場だったため、自分よりも若い二人と訓練する事はとても新鮮でした。炎天下での訓練に加え不慣れな学科訓練もあったため大変ではありましたが、年の近い松下君や小林君との訓練はまるで学生時代に戻ったような気持ちにもなれ、とても楽しい日々を過ごす事ができました。

しかしそんな中、どうすれば良いチームになるのか、どうすれば優勝できるのか、班長として日々考えていました。そして僕が一番重要だと感じた事は『コミュニケーション』でした。競技中だからといっても遠慮せずにどんな些細な事でもお互いを注意し合い、意思を共有するためにコミュニケーションを最大限にとる事。それが最も大切なのだと改めて実感しました。

大会当日は、予想通りでしたが緊張感のため体がガチガチになっていました。しかし競技が始まると、自分でも驚くほ

ど冷静になり他の二人への指示も練習通りに行えて、懸念していた声出しも出場していたチームの中では一番できていたのではないかと思います。しかし結果としては、終盤のトラブルに加え学科競技で点数が伸びず、敢闘賞という結果に終わりました。

僕の好きなお笑い芸人、ダウンタウンの松本人志さんの言葉にこんな言葉があります。「100点は無理かもしれん。でも100%自分のMAXは出せるやろ。」優勝こそできませんでしたが、練習で積み重ねてきた自分のMAXは出し切れたと思っています。そして何より大切な事。辛い事や面倒な事でも諦めずにチャレンジして乗り越える事が自分の力になっていく。それを、この経験を通し改めて感じる事ができた事に、心から感謝したいと思います。

中部電力の講師の方々、支えてくださったセンター役員の皆様、そしてこのような機会を与えてくださった社長、応援してくれた家族や会社の方々、本当にありがとうございました。結果は出せませんでしたが、全く後悔する事なく大会を終える事ができました。この貴重な経験で学んだ多くの事を、今後の仕事に生かしていきたいと思っています。

そして技能オリンピックはいろいろな困難もあると思いますが、今後とも末長く続いていってくれたらと考えています。



唯一無二の2ヶ月

株式会社町田電機商会 松下 翔平

このたびは技能オリンピックに出場させて頂き、ありがとうございました。

選手に選ばれ、前回大会のDVDを見たときの正直な心境は「大変そうだなあ」と思い、当初はあまりやる気が持てませんでした。ですが、訓練が始まり、内線担当になって実際にやってみると、競技時間内に完成させることができず、くやしいう気持ちになり、また、頑張っで電柱に昇っている小林君、真剣に取り組んでいる平坂班長を見て、自分一人で完成させるのではなく、3人で協力して完成させたいと思うようになり、自分も意識が変わり「絶対に完成させる」「勝ちたい」という目標を持って取り組むことができました。

大会当日は緊張で手が震えるほどでしたが、訓練の成果を発揮し、完成させることができました。しかし、ほかのチームに一步及ばず、連合大会への出場とはなりません。結果としては入賞できず、とても悔しい気持ちでいっぱいでしたが、毎日暑い中訓練を重ね、3人で一致団結して大会に臨めたので後悔はありません。

小山講師始めご指導して頂いた皆様にはとても感謝しています。内線の仕上がりをご指導していただいた役員の皆様のおかげでいい作品ができ、また、自分のスキルアップにもなりました。毎日ご指導して頂いたにもかかわらず、結果が伴わ



ずすみませんでした。学科では岩田副長始め、勉強ができない自分を毎日指導してくださってありがとうございました。改めて勉強したことで初心に戻り、仕事にも生かせる内容を学べたことは本当に良かったと思います。

技能オリンピック全体を通して、非常に貴重な経験と良い勉強をすることができました。大会が終わり、片付けをしているときは毎日の訓練を思い出し、寂しい気持ちになりました。

多くの皆様に支えられ約2ヶ月間、充実した毎日を送ることができました。今回学んだことをこれからの仕事に活かしていきたいと思います。

楽しかったです。ありがとうございました。



次へのステップアップ

不二電工株式会社 小林 克也

初めて技能オリンピックのお話をいただいたときに、それはいったいどんな競技なのか何を競い合うものなのか、全くわかりませんでした。そんな事もあり不安な気持ちでいっぱいでしたが、開校式の日に関心が高まり決まりやるべき事が少し見えてきた時、『頑張ろう』という気持ちに変わっていきました。しかし、今まで柱上作業をした経験はほとんどなく、チームの足を引っ張ってしまうのではないかとこの気持ちも少なからずありました。

訓練が始まると、やはり最初は何ひとつうまくいかず、何度も心が折れそうになりました。ですが、指導員の方々には一から丁寧に教えていただき、役員の皆様にはいろいろな方面からサポートしていただき、班長の平坂さんや内線担当の松下さんたちは親身になって相談に乗って

くれました。そして反省点や改善点などを皆で話し合う事で、折れずに最後までやり抜く事ができました。

大会では、後悔のないように全力を出し切る事を目標にして臨みましたが、自分がふだんしないようなミスをしてしまった事に、後悔がないと言えば嘘になります。しかし、持てる力の全てを出し切れたと思っているので、そこは自分でも納得しています。

最後に、お忙しい中手厚いサポートをくださった関係者の皆様、最後まで見守ってくださった会社の皆様、そしてこんな自分と最後までやり抜いてくれた平坂さんと松下さん、本当にありがとうございました。滅多に経験できることではない今回の貴重な経験を活かし、今後に役立てていきたいと思っております。



店主からの MESSAGE



謝 辞

株式会社旭電気商会 代表取締役 千野 貴文

第36回引込および内線工事技能オリンピック長野県大会への出場選手として、弊社より平坂健を派遣いたしました。結果として目指すところへの到達は叶いませんでしたが、思い通りにならなかったことを含めて、選手達にとって貴重な体験になったものと推察いたしております。

訓練期間中は、社業での技能労働者のやりくりに苦労いたしました。また経費も正直つらいところがありました。しかしながら、選手の頑張りを目の当たりにして、他の社員が刺激を受けたり、社内に支援する体制がいつしか出来ていたり、企業風土に新鮮な風が吹き込んでいることを実感いたしました。また、選手も飛躍的な成長を遂げ、人材育成の面で弊社は多大な恩恵を受けたものと感じております。

電気工事のエキスパートを目指そうとする若年労働者の減少に歯止めがかからず、技術や技能の承継が困難な時代を迎えています。その反面で昨今頻発している自然災害により、不断の電力供給の重要性は広く社会に認識されています。つきましては、技能オリンピックのような機会を業界の垣根の外側にいる皆様に参観していただく働きかけを期待するところです。

結びに、ご指導をくださりました中部電力株式会社の皆様、お世話になりました長野県電気工事業工業組合長野支部並びに長野電気引込工事センター役職員の皆様をはじめ、関係各位に深甚なる感謝を申し上げ、謝辞といたします。

更なる成長に期待



株式会社町田電機商会 取締役技術部長 望月 一 宏

関係者の皆様大変お世話になりました。おかげさまで出場させていただいた松下も技能オリンピックを行う前と後では見違えるような顔つきになりました。

惜しくも連合大会出場とはなりませんでしたが、普段とは違う緊張感の中自分の最大限の力を発揮し、悔いなく終わったということなので、残念ではありましたが本人にとってはいい経験になったと思います。

また、このような大会を経験することによって新たな見方ができ今後の仕事に生きる

とともに、後輩への指導にも生きてくるかと思えます。今回松下がこのような経験をする事ができたのも、一重に皆様のご尽力のおかげだと思っております。ありがとうございました。

最後になりましたが選手、関係者の皆様大変お疲れ様でした。

ま え あと 「前と後」…

技能オリンピック大会とは

不二電気株式会社 代表取締役 原田 憲一

中部電力様、並びに講師の皆様、運営に携われた皆様ありがとうございました。そして、各選手の皆様、猛暑の中、訓練大変だったと聞いております。お疲れ様でした。

競技を見ていて、各選手の一挙一動が著しく成長している事に驚いたと共に、関係者皆様のご尽力の賜物であると感じました。また、会社として店主として、何かもっと協力出来ることがあったのではと考える所もありました。

最初は、私自身よくある「参加することに・・・」という気持ちでした。実際、弊社小林に参加してほしいと頼んだ時も、「滅多に出来ない経験なので・・・参加することに・・・」と話を進めていった記憶があります。あくまで、本人の意思を尊重するつもりでしたので、この話をお断りすることも視野に入れていました。社長から頼まれれば、断りづらい事は分かっていましたが、本人から、参加しますと言ってきたときは、正直嬉しく思いました。

訓練が進むにつれ、選手各自が、最初どのような気持ちで、この大会に臨んだのか分かりませんが、お盆の最中も、皆が真剣に訓練をしているのを見聞きし、何か気持ちの変化があったのかなと思いました。私自身も、選手達がこれだけ頑張っているのなら、競技である以上1位を取ればと、気持ちに変化があったことを思い出します。もしかすると、選手の中にも私と同じ感覚の方、いたのかもかもしれません。

競技を終えて悔いの残った方、満足した方、様々であると思います。私は、競技の結果という観点から見ると、多少、悔いは残ります。しかし、そこに至るまでの過程は、何物にも代えがたい貴重な経験であり、悔いの残るような経験では無いと思います。

日々仕事に追われ、この様な「もっと上を」という向上心の様な感覚が薄れてきているのか、また、現状で満足してしまっているのではないかと色々な思いが湧いてきました。実際に競技に出場した選手たちは、きっと、私以上に得るものがあったのではと思います。この技能オリンピック大会を通じて、非常に良い経験をさせて頂いた事に感謝しております。

店主からの
MESSAGE

Epilogue

人生の『目的』と『目標』

目的とは『最終的に成し遂げようとする事柄で、目指すべき到達点』であり、目標とは『目的を成し遂げようするために設けた具体的な手段』である。その意味で、競技者が勝ちたいと願うのは当然のことであり、技能オリンピックに出場した三選手が、各自掲げた目標を達成できなかったことに悔しさを覚えるのも当然である。

直前の新規認定試験では昇柱すら満足にできなかったという小林君が、見事に柱上作業をやり遂げる人材となり得たのは、大きな収穫であった。連日の猛暑にも負けず、講師陣の厳しい指導にも屈せず、最も成長著しい選手であったと思う。素直な性格は財産である。どうか大切にしていってほしい。あとは食べ物の好き嫌いがなくなれば…(笑)

班長の平坂君は、訓練を始めた当初声が小さく周囲を不安にさせたものだが、仕上がりは実に見事なものだった。大会当日、応援に来てくれた奥さんから彼の日常を聞き、納得した。彼は家に帰ると毎日、声を出してTBMや接遇の練習をやっていたという。時には奥さんを相手に練習していたそうだ。班長としての重責に押し潰されることなく、出場チームの中で一番声が出ていたという平坂君の自信に溢れた言葉は、彼の大きな成長を物語っている。家族は、特によくできた女房は財産である。一生大切にしていってほしい。私が心配するまでもないけれど…(笑)


内線担当の松下君は、天性によるものなのか努力によるものなのかわからないが、あらゆることを器用にこなす爽やか平成男子という印象があった。人懐っこい性格は周りを和ませる。おそらく、秘めた闘志が一番強いのではないかと思われる彼が、この会報に寄せた文章は『楽しかったです。ありがとうございました。』と締めくくられていた。この言葉は奥が深い。『楽しかった』の中には『苦しかった。辛かった。』がたくさん詰まっている。その全ての集大成として楽しかったと言えること、楽しいと思えること、それが仕事でも人生でもより良いものを生み出す原動力となるのだと思う。その前向きな姿勢は財産である。生涯大切にしていってほしい。『楽しかった。ありがとう。』それ、私が職場を去る時に使いたかった言葉なんだけど…(笑)

一番嬉しかったのは、慰労会での大田支部長と伊東地区長の挨拶の中にあつた。支部長は「結果がどうであれ、一番の賛辞に値するのは長野チームです。自分の中では長野が優勝したと思っています。」と言い切り、地区長は「私が施主の立場で、工事をお願いするとしたら、最も丁寧かつ迅速に仕上げた長野チームしかありません」とも語ってくれた。

この先の人生、目標となるものには限りなく出会うことだろう。『目的』はその到達点にある。どんな人生を送るか、どんな人間になるのか、それを到達点と考えるならば技能オリンピックの目標は十二分に達せられている。客観的に採点された順位以上のものを私たちに残してくれた三選手に、惜しめない拍手を送りたい。そして、たくさん成功や挫折を繰り返しながら、より良い人生を歩いていってほしいと心から願う。

(事務局 倉嶋)

1月20日 総務委員会 長野電気会館に於いて



編集後記

新年あけまして

おめでとうございます。

皆様のおかげをもちまして、支部通信第七十七号の発行となりました。

お忙しい中、寄稿にご協力いただきありがとうございます。

昨年は、台風十九号の大雨による災害の一年となってしまいました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

本年は、会員の皆様にとって穏やかで良き一年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

総務委員会 副委員長

久保田 貴律



編集

担当副支部長 伊藤 善宣
総務委員長 町田 幸司
総務副委員長 久保田 貴律

総務委員 日極 量博
村石桂太郎
(事務局 倉嶋)



皆様の
ご健康とご多幸を
心からお祈り申し上げます

お客様にご満足いただける
より安心安全な環境づくりをお手伝いします
本年もよろしくお願い申し上げます



ながの電材会
大沢電機株式会社
昭和電機産業株式会社
株式会社デンセン
株式会社ニッセー電機

(五十音順)